

第4版の序

ついに第4版を出すまでになった。光陰矢の如しというように、初版を2006年12月に世に問うてから、もう14年の月日が流れたのだ。幸いなことに、教科書として大勢の方々に受け入れてもらえたようで、本書を教科書として採用された先生方、利用してくださった学生の方々に心から感謝している。また、この間、多くの方々からいただいた記述の誤りなどの丁寧な指摘を受けて、訂正したり書き加えたりした。この点についても、あらためて感謝したい。

前回の改訂では、カラー化をするために、図版の準備などに追われたが、全図版がカラー化されたことで、とても分かりやすくなったと思っている。特にタンパク質の立体構造が分かりやすくなった。その陰に隠れて、内容の記述の踏み込んだ改訂は十分ではなかったので、今回、読者からの指摘が多くあった発生と免疫の章は、書き加えて配列を整えた。特に免疫の章は、自然免疫に関する新たな知見が多くあり、大幅に書き加えた。改めて通して読んでみて、免疫現象も進化の過程を色濃く反映していることが、浮かび上がったような気がする。その他の章も、書き加えたり配列を変えたりした。より一層わかりやすくなったと感じていただければ幸いである。

今の時代は、生物学の知識はもはや必須となってきている。ネット社会になって、様々な情報が飛び交うなかで、どれが正しい情報であるかを的確に判断するためには、生物学の基礎的な知識がぜひとも必要である。進化という歴史を必然的に背負ってこの地球上に暮らしている生物、しかも孤立しているのではなく、お互いにつながりあい、影響しあって生きている生物、同じように見えてそれぞれが全く同一でない生物。このことを理解するために、生物学を、地球上の生き物全体を見渡す大きな視点と生き物をもつ個々の現象に立ち入ったミクロの視点で、理解することが必要なのである。専門課程に進んで、ミクロの視点で生命現象を理解し、研究するようになった時にも、そのことを理解し、この本で学んだことがバックグラウンドとして役に立ってくれば幸いである。

「役に立つ」と書いたが、そんなことより、もっと大事なことがある。それは身びいきな言い方かもしれないが、生物学はおもしろいのである。だって身の回りにいる様々な生き物が、どんな戦略で「生きている」かを知ることができるのだもの。この教科書を使って学ぶ生物学が、おもしろくてワクワクすると感じて学び取ってくれば、著者としてとてもうれしい。

2020年9月

和田 勝